

## 第2回新宿区文化芸術振興会議（第7期）議事要旨

- 開催日時 令和5年7月18日 午後2時から午後3時30分まで
- 開催場所 四谷スポーツスクエア 会議室N
- 出席者
- 委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 堀家睦子 工藤真実  
中島隆太 大和滋 飯田直子（欠席 藤岡紗絵 岡室美奈子）  
\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順
- 事務局 鯨井文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 内藤主事

## ■議事の進行

## 1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

## 2 議事（要旨）

- (1) 新宿区文化芸術振興会議の内容確認について  
資料1に基づき、前回会議（令和4年12月20日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 調査審議事項  
第7期調査審議事項について、資料3及び資料4に基づき説明を行った。
- (3) 意見交換
- (4) その他

## 【以下、意見交換】

・コロナ禍の3年を経て、あのときICTが急に注目されて議論がいろいろと起きたと思うが、今、元に戻りつつある中で、冷静にICTの使い方というか生かし方というものを考えていかなければいけないというのと、この会議の第1期以来ずっと続いているフィールドミュージアムの問題である。

・あれは核になるので、資料4にあるように、真ん中に赤で書かれているフィールドミュージアムの活用というもの、その中にICTも組み込んでいくというか、そういうようなことがあるのだろうと思う。

・フィールドミュージアムの枠組みは、区内のいろいろなスポットが横につながって、ある時期集中的に発信していこうという構造になっている。その事業実態と事業の組み方という問題と、もう一つはウェブの活用、プラットフォームサイトの充実。コロナ禍でICTの議論があって、まだ十分に生かしきれていない部分がある。ここをどう生かしていくかというようなことが、次のICTの活用の一つとしてあると思う。

・フィールドミュージアムとしての新たな展開で、今までのやり方ではない次のステップに行く時期に来ているのではないかという気がしている。

・かなり長期的な話だが、2040年にグランドターミナル開発が終わる。

・公共空間をいかに文化で生かしていくかというテーマを軸にして、フィールドミュージアムと、西口を中心として公共空間を生かす。それを区内全部いろいろなところでも展開できるような事業施策が持てると、西口開発を軸にしていろいろな広がりが出てくると思う。

・具体的に、前期から議論してきたことをまとめていくことを考えると、もう一度新宿フィールドミュージアムの再定義みたいなことを少しやり、それに付随したICT、公共空間という考え方をしていくと、区がやれることが明確になってくると思う。

・コロナという全世界的な非常事態において、日常の生活自体をどう成り立たせようかという中で文化芸術をどうしようかという議論で、活動している方にとってみると、その活動が続けられるかという死活問題であったし、文化芸術に普段親しんでいる側からは、アクセスが全く閉じてしまうということ、心がどこかに置き去りにされてしまうようなところをどうつないでいくかということがあったと思う。

・その議論自体も振り返ってみると、既に文化芸術にアクセスのある人たちの間の議論だったのではないかという気がする。

・今一段落して、人流も以前以上に活発になっている中で、文化芸術というものが私たちにあってなぜ必要なのか、なぜあったほうが望ましいのかということを変えて考えた。

・これだけ観光地に皆さんがいらっしやる中で、文化芸術に触れるためにいらっしやる方にとっては、ある種、非日常の中で新たな視点を得たりとか、そういった生き生きとしたりということであると思う。

・今議論している文化芸術というのは、日常の中に文化芸術がどう息づいていくかということか、接点を持てるかということ、もう少し議論すべきなのではないかと考えている。

・人々の間で文化芸術が日常的になるということに、新宿フィールドミュージアムという既に新宿区の中で活動しているものを、10月、11月という期間も1つのポイントではあるが、そこをICTによって通年で接せられるようなことにつなげていけないか。

・そこには当然このプラットフォームとかサイトをいかにつくっていくかということも必要になってくると思うし、文化芸術活動主体だけではなくて、例えば、学校、あるいは次世代に向けてそこをどうつなぎ合わせていくかということ、もう少し議論していく必要があるし、行政でしかできないような部分というものもあると思う。

・公共的空間を文化に生かすという方向に関して、ツーリズムの一環として新宿に皆さんがいらっしやるかというよりは、そこに来れば文化芸術に触れられるという、親しみのようなところでまちづくりにうまく文化芸術が生かしていければと思う。

・文化芸術があっという間と思うのは、不要不急ということがよく語られていたが、そういう生きていく上での余白であったり、大いなる無駄というようなところに人に対する優しさであったり余裕であったりということが、文化芸術の最たる、私たちの重要な部分になったりということがあるので、そういうことを感じられるようなことを、文化芸術がまちづくりに果たしていければ望ましいと思う。

・今、ICTの活用については、行政が関わるというのは非常に難しいところがあると思う。今現実にはできることとすると、イベントなりいろいろなものと、集客をICTによってつなげるということにおいて、新宿区がサポートをするということになるかと思う。

・資料2-2の主な取組のところに、新宿観光振興協会がサイトを運営していることが記載されている。多言語にも対応しているので、そこがある種、文化芸術も含めたゲートウェ

イみたいな、新宿の文化振興にアクセスするゲートウェイみたいなものになっていくように、区として関わっていくということは1つあると思う。

- ・そういうサイトが情報のゲートウェイになれば、そういう入口があることを、QRコードでホテルなり何なりのコンシェルジュとか部屋に置いていただいたりすると、訪れた人はそのQRコードを読み込めば自然とアクセスができる。

- ・一歩先を行っているものとして、そういうものを活用していかれてはいいかなと思う。

- ・公共的空間の活用というのは、冒頭、新宿駅の2040年に向けた話があったが、中長期的な大きな都市計画の中に、文化芸術の在り方を組み込んでいくという考え方でいかればいいのではないかなと思う。

- ・そういう意味でいろいろな規制はある中でいろいろな文化芸術を身近に見ていただければ。そういう視点で公共的空間が活かせるような都市づくりというようなことに、区として助言をされていければよろしいのではないかなと思う。

- ・そういう意味では、今バスタのほうに大きな観光案内所があるが、いろいろな民が行う観光案内所もこれから出てくると思うので、それが新宿駅のグランドターミナルのところにうまく点在するというような形で。

- ・新宿区が、来ていただく方にとって、また区民にとっても決して分かりやすいまちではないと。大き過ぎて、何が何だか分からない。そういう意味で訪れる人たちにとってフレンドリーなものが、民の力も借りながら、そういうものが点在していくようになればよろしいのではないかなと思う。

- ・フィールドミュージアムが核となるという意見について、既にあるものの形を使うということには大賛成だが、4年度、5年度は10月、11月の2カ月に絞った。その前は7月から11月とかに広げていた。

- ・本当に集客のため、新宿フィールドミュージアムがまちの1つのイベントに、核となる存在になるためには、2カ月に絞ったほうがいい。5カ月では、お客様にもスポットを当てて集客のしょうがなくなってくる。

- ・1つの核としてフィールドミュージアムの在り方を検討されるのであれば、個人的には2カ月、10月・11月でも、9月・10月でもいいが、その中で今年のテーマを決めるなり、毎年のテーマを決めるなりしながら、それが新宿区の文化芸術の1つの象徴的な存在になるというふうにしていければよいのではないかなと思った。

- ・コロナの状況から、文化芸術の現場は、随分お客さんが戻ってきたという印象で、いろいろな主催公演で、ほぼ満席状態が続いている。

- ・コロナ以前と大きく変わってきたことは、外国人のお客さんがすごく増えてきた。こんなに外国人が来ていたかなというくらい多い。海外のお客様も日本に目を向けていると思う。

- ・日本人でも、例えば歌舞伎町に何ができたとマスコミが言うとワッと行く。外国人も当然行くが、外国人は、日本人と違った視点で興味あることがいっぱいある。

- ・路地裏のちょっとしたお店など、日本人があまり行かないようなところでも外国人は集まっている。そのようなところを外国人は探して、それを発信する。その発信したものを、逆に日本人が見て、行くというような。

- ・ICTの部分で、こういう外国人の発信したものを逆に利用していくのも1つの手ではないか。日本人の場合は、ちょっと違った視点のほうがより効果的ではないかなと思う。

- ・やはりどうしてもコンテンツが重要なので、コンテンツをどうつくり上げていくか、ある

いは、あるものをどう活用するかということだと思う。

・新宿文化センターは今年の秋以降、改修・休館に入るが、その間、中身をどう作り上げて、区内の施設で発信していけるのかというのは非常に大きなことだと思う。1回お客さんが離れたらまた取り返すのは大変難しいので、何かしら継続していくべきではないか。

・資料2-1を見たら「こんなに新宿っていろんなことやっていたのだ」ということや、本当に興味を持っている人間ですら知らなかったようなことがあって、「こんなことやっていたの、あらこれも」みたいな感じですごく驚きが多かった。

・新宿歴史博物館はメンバーズ制度があり、区民なら年間1,000円で、漱石山房を始め区内の各ミュージアムをただで見ることができるというメリット満載のもので、ずっと入っている。

・こんないいものはほとんどの区民が利用しているのだろうと思っていたら、資料2-1では令和5年3月末時点で会員数が707人とあり、すごく少ないのではないかと思った。

・自分も近所だったからそこに行って、「こういうのあるよ」と言われて初めて知った。だから全然PRできていないのではないかなと思う。

・新宿未来創造財団の「Oh!レガス 新宿ニュース」を見たら、メンバーズクラブのことは書いていなかったりするので、いろいろやるにしてもすぐできることだと思うので、そういうものをもっとアピールするというのは1つの手なのかなと思った。

・新宿文化センターにはすごく思い入れもあるし、どうにかもっともっとメジャーになってもらいたいと思っている。

・この11月から2年間、改修工事で休館に入るが、そのときにぜひこれはやったらいいのではないかと思うことがある。それは新宿文化センターにはすごく立派なパイプオルガンがあるので、パイプオルガンのアピールである。

・武蔵野市民文化会館小ホールにパイプオルガンがある。パイプの数も武蔵野は約3,000で、新宿は5,000以上あるからすごく立派なものなのだが、武蔵野には、規模が小さいのにすごくアピールする動画がある。

・パイプオルガンはどんな楽器ということから始まって、パイプオルガンの誕生とか、音の出し方とか、どんな構造で音が鳴るのかとか、そういうのを細かく説明してくれている。

・また、国際パイプオルガンコンクールまで実施している。せっかく改修してもっとアピールするのであれば、新宿文化センターにあるパイプオルガンを、ここは専属のオルガニストもいるので、ご協力も得てそういう動画を配信する。

・海外の人とかが見られるような感じになれば、例えば歌舞伎町の辺りのホテルに泊まった人がちょっと見に行こうかみたいに気軽に体験できるようになるのではないかと思う。

・新宿文化センターはパイプオルガン体験講座「パイプオルガンはヒミツ基地！」が8月19日に行われる予定になっているが、自分で検索してみないと出てこないという感じである。もっと大々的にアピールする動画とかもあってもいいと思った。

・新宿文化センターとライバルではないが、似た感じだと文京区のシビックセンターがある。リニューアルして新しくなって、すごくいろいろな有名なアーティストの方を呼んでコンサートをやっている。

・いいなと思うのはコンサートのライブ配信で、9月1日と11月16日に、ピアニストのコンサートのライブを、各回1,000円という安いお金で見ることができる。

・芸術というのはその場所に行って味わうのが最高だと思う。どんなものでも、絵であろう

が、音楽であろうが、舞台であろうが、演劇であろうが、何でもそう思うが、とりあえずちょっと見たいなという人、時間が合わないとか、行きたくてもいけないとか、そういう方の為にもこういうふうなものを、2年先を見据えて準備して、文化センターがもっともっと栄えるようにしていってもらえれば、まち全体も明るくなるし、いいのかなと思った。

- ・とにかく手っ取り早くできることからやればいいと思う。

- ・文化センターのパイプオルガンは、随分昔から議論し、廃止しないでやってきた。つまりいろいろ新宿区はやっている。ところが、数が多過ぎるのか、うまくそれが伝わっていないという現状はあるのかもしれない。

- ・新宿の文化というと、歌舞伎町も入れて新宿駅周辺、そして新宿駅の東西を続けて、そこに何か1つの文化地域みたいなをつくる、あるいはできていくのではないかな。

- ・そういう予想があって、そこに役所や何かが関与できるのかという問題もあるが、そういうところは、新宿に来る人がつくり出すような文化であり、一方では新宿に住んでいる人たちのための文化というか、そういうものがあるはず。

- ・それが新宿駅周辺以外でどういうものがあるのか。新宿を幾つかの区に分けて、早稲田区とか神楽坂区とか、いろいろ分けてもうやっているが、そちらのほうにはそれぞれ単独に文化的なものがある。

- ・佐伯祐三のアトリエ、林芙美子の住んでいた家とかが公園化されている。林芙美子は、年配の人はよく知っているが、若い人は分からないところがあるのかなと思うが、代わりに漱石山房記念館が大変盛り上がり上がっているように感じる。そういう新しいものをつくる。

- ・各地にある、特に文学者や芸術家の住んでいたところは、そういうものをつくるのに1つの拠り所になるのではないかなと思うので、そういうところも少し発掘してもいいのではないかなと思う。

- ・中村彝もそうだが、こういう方の場所を保存して、それをみんなが共有しているというの、全国的にも非常に珍しいだろう。これは新宿区が誇っていいところだと思って、そういうものをもう少し増やせないかなと考えたりする。

- ・新宿駅周辺を盛り上げるという文化と、新宿に住んでいる人たちのことも、そういうものを発見する、見つけ出すということがあってもいいのかなと思う。そういう意味でフィールドミュージアムというのはいろんな解釈があるが、ここにもこういうものがある、あそこにもああいうものがあるという、そういう発見をする場所でもある。

- ・それを使って演劇や音楽会、そういうものを集中的にやり、そこから発信、何かパフォーマンスを広げていくという考えもあって、このフィールドミュージアムは、まだまだ利用価値があるのではないかなと思う。

- ・新宿に住む人たちの文化というのも考えていきたいと思う。

【垣内副会長】

- ・第7期に何をするのかというのが、大きな課題として十分に詰めきれなかった部分がある。

- ・コロナが明けて、世の中非常に大きく変わってきているところもある。文化や観光も随分、特にインバウンドは円安で大変に戻っていると一般的には言われているが、まだ思ったほど戻ってきてはいない部分もあるかなという感じもしている。

- ・この何年間かで、国だけではなくて自治体もそうだが、できることが非常に限られている。それは市場ではできないが、みんなのためになることでないと、なかなか納得されない

というところ。

・文化でも、いいものだったら公的支援というのが示されていたかと思うが、今そういう時代は終わりつつあり、自治体なり国なりもプレイヤーの一部であるということが非常にはっきりと見えてきた。これは、日本だけではなくて、他の国も同じかなと思う。はっきり言って、政府の支援がどんどん切られているというのが実態としてあるかもしれない。

・他に資源を振り分けなければならないことが多いということもあるだろうし、政府がやらないほうがうまくいくという部分もあるかもしれない。

・その中で、少なくとも基礎自治体はやはりインフラづくりと規制緩和はやってもらわなくてはいけないと思う。

・インフラづくりは施設と思われるかもしれないが、例えば、新宿フィールドミュージアムみたいなプラットフォームというのか、ハードではないソフトのインフラもあっていいのではないかと思う。

・一方で、ICTと公共空間だが、どちらも従来型の文化振興のセクションとしては、非常にやりにくい部分が多いと実感している。

・ICTに関しては、非常に技術の進展が早く激しくて、どこまで行くのか分からない部分があり、そこを後追いするのは非常に難しい。

・では何ができるかと言ったときに、プラットフォームやサイトの充実は、集客とか利用の促進というものについて、大きな役割を担えるかなというのがある。

・今、Z世代もそうだが、アートのファーストエンカウンターというが、最初に音楽なり美術なりをみるのは、自分の家で、部屋で、スマホの中で見ると。その後実際にその現場に行く、リアルに触れる、こういうプロセスが日常的になっている中で、最初に知ってもらえないといけないという意味で非常にお金もかかるし、手間暇もかかるが、技術もどんどん進展しているので、そこをうまくそれぞれが使っていただく。

・その使っていただくに当たって、何か支障になるところをサポートするというやり方がいいのかなとも思う。

・公的空間、新宿駅周辺の開発の完成は2040年とすると意外に時間があるようで、ないかもしれない。基本的な考え方の中に、文化とか芸術を生かすということ、これは多分大手の鉄道会社を中心にやると思うが、そこに文化や芸術を生かすことが、彼らにとってすごくメリットがあるということをしちんと飲み込んでもらって、基本計画に入れてもらうというプロセスに少し時間がかかるかなと思う。

・その鉄道会社に東急も入っているが、あの固い東急の社長がこれからは「衣食住遊」ということが重要だと言うくらいだから、彼らにもそういう考え方に非常に親和性が出てきているのではないかと思う。小田急もそうだし、従来型の開発ではない在り方というのを受け入れていただく素地もあるような気がするので、そちらのほうは急いだほうがいいのかも思えない。

・なかなか難しいところであるが、とりあえず公共的空間に文化芸術を生かすというところを中心に置きつつ、このICTの行方も横にらみしながら両方やっていくというのが現実的かなとも思う。

・ちょっと難しいかもしれないが、ICTのほうがどちらかという後追いで、こちらの公共的空間については少し積極的に出ていただくというような力の配分に差をつけながら議論していくというのが、限られた時間内でより効果的な結論を導けるのではないかと思う。

- 文化とは何か。1つは「空間的な広がり」、新宿というのがあって、それをさらに広げれば、新宿から東京全体という世界につながる空間的な広がりがある。

- もう1つは、「時間、過去とのつながり、歴史的な文学、歴史遺産」。新宿はもちろん、様々な文学、歴史遺産、それから過去の林芙美子などの作品もずっと残っている。そういう時間的な歴史と空間的な広がり、その十字路に立つのが文化だと思う。

- その文化に立って、両方を見渡しながら両方取り入れていくということが文化の役割だと思う

### 3 事務連絡等

次回会議は11月～12月頃の開催予定とし、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

### 4 閉会

会長の挨拶をもって、午後3時30分に閉会した。